中大スポーツ
CHUDAI SPORTS
9月20日 金曜日
令和6年(2024)
第184号
中央大学体育連盟機関紙
発行人 為谷 楓太
編集人 小野 祐司
八王子市東中野742―1
電 話 042(674)2802

中スポ ケイリンも!! スプリントも!! ゲット!!

自転車競技部

競技中の井出〈カメラ・村野風珈〉切り込み写真は表彰式で笑顔を見せる井出

◆文部科学大臣杯第79回全日本大学対抗選手権自転車競技大会トラック部門（8・23～25 千葉県・TIPSTAR DOME CHIBA）

インカレ 文部科学大臣杯第79回全日本大学対抗選手権自転車競技大会トラック部門（以下、インカレ）が行われた。バンクと呼ばれる板張りの1周250㍍、最大斜度45度の競技場でケイリンをはじめとした9種目の合計得点を大学別に競う。昨年総合2位という結果に終わった中大は、2022年以来のトラック部門優勝に向けて挑んだ。

◆井出晃太郎プロフィール
いで・こうたろう 平成16年1月31日生 静岡県出身 星陵高卒 176㌢・80㌔ 趣味・ドライブ 好きな食べ物・うなぎ

展開読み快走

先輩が抜けた分、自分が短距離を引っ張って行こうという気持ちで臨んだ。3年連続二冠を飾った田龍生都（令6卒・現日本競輪選手養成所）をはじめとする頼もしい上級生が集った中で迎える初のインカレ。大会2日目のケイリン決勝まで井出晃太郎（法3）は危なげなく駒を進めた。先行逃げ切りを得意の形とする井出はペーサーの真後ろ、1番手からの出走となり絶好の舞台が整う。「ラスト2周くらいで田村くんが来ると思ってそこに合わせて行こうと思っていた」と予想どおりラスト2周で田村（京産大）が仕掛け6番手から一気にトップに出るも、そこにしっかりと反応しラスト半周でトップに躍り出る。最後は相手を寄せ付けず差を広げた井出は、優勝を確信させる追い上げを見せそのままトップで優勝を飾った。ゴール後には高く拳を上げ喜びを爆発させた。

気持ちで制覇

大会3日目スプリント決勝では、1戦目を先取されるものの「1戦目はあまり自分の持ち味を生かしたレースができなかった分、2本目3本目に絶対勝ってやるという強い気持ちを持って優勝に向かって走れた」と先制された後の2本目、3本目は一度も前を明け渡すことなくゴール。昨年、インカレ、全日本学生選手権スプリント競技で2戦2敗だった日大勢に勝利し、悔しさを晴らす走りを見せた。去年の頼もしい先輩・田龍生都に同じインカレ個人二冠、チームスプリント準優勝を飾った。

ウィニングランをする井出

「三冠達成を」新たなChapterの始まり

目指すは三冠

高島監督は井出について「今年に入って体づくりから始めた成果がインカレで出てくれて言うことないです」と賞賛し、「市田がいなくなり結果が出ないんじゃないかと不安に思ったが、その不安を払拭（ふっしょく）する結果を出してくれて本当に頼もしい」と笑みをこぼした。

インカレ二冠を達成し、短距離で着実に力をつけている井出は、来年最後になるインカレに「来年こそチームスプリントも優勝し三冠達成を目指したい」と気合十分。2年ぶりのチームスプリント優勝、さらには4年ぶりのインカレ総合優勝へ。苦境を乗り越えた大器が、さらなる躍進を誓う。（石井悠樹）

▶大会結果▽ケイリン❶井出 スプリント❶井出 チームスプリント❷井出・植松史弥（商3）・熊谷海飛（商2）

Center Position

「SIMPLE DANS MA VERTU FOR TE DANS MON DEVOIR」（徳において純真に、義務においては堅実に）」中高6年間を過ごした学園の校訓である。素直で裏表のないまっすぐな品性を備え、なすべきことを誠実にやり遂げる強さをも持つように、という教えだ。久しぶりに届いた同窓会誌に書かれたその文言を目にして、当時呪文のように口にし、何度も耳にしてきた言葉が急に懐かしくなった。▼大学卒業後を見据えるこの頃、自らの道を進む同級生たちの姿をみて刺激を受けるとともに焦りを隠せない。自分はこのまま進んでいいのだろうか、これまでやってきたことが間違っていないだろうか、ふと疑心暗鬼になる。時に他人をうらやみ自分が嫌になることさえある。しかし今の自分は、自ら後戻りできない選択を繰り返し、その結果たどり着いた場所に立っているのである。この部会に入部したことも、不確実な夢を追い求める決断をしたことも、選択の全てが自分を作っている。▼「自分で考え自由に決断しそれに責任を持つこと。『芯のある人としての強さ』を身に付けなさい」。校訓とともに当時のそんな教えが頭をよぎる。もちろん下した決断には失敗も付き物で、ただ生かすも殺すも自分次第。それも含め「責任」として、選んだ道に素直に向き合い、やるべきことに懸命に取り組まないといけない。▼不確実な夢を追い始めて約1年半。プロの現場でやりがいを感じながらも、毎度自分の未熟さを痛感する。取材、ゼミ、アルバイト、そして多くの人との出会いを通して得た「スポーツの力で社会を動かしたい」という思い。それを胸に、他人に、そして自分に正直に「責任」を果たしたその先をつかみ取りたい。▼最後に、6年間の教えの重みとありがたさを今になって感じるとともに、立ち返るよりどころがあることを幸せに思う。これからどんな選択をしてどんな結果が待っていようと「芯のある自分」を持ち続けられる人でいられるように。（琴寄永里加）

◆パリ五輪◆ 自転車競技部OBの今村駿介選手（令2卒・現TEAM BRIDGESTONE Cycling）がパリ五輪に出場し、男子マディソンで5位入賞を果たしました。おめでとうございます！

らーめん
にんにくや
Instagram: ninnikuyaseki
twitter: ninnikuya_h
応援してるぞ～!!

伊藤 悔しさ残る準優勝

4㌔インディヴィジュアル・パーシュートに伊藤恭（法4）が出場した。7月の全日本学生選手権では大会記録に迫るタイムを記録し、インカレに向けて「より本番に近い形で練習し、インカレで学連記録を更新したい」と意気込んでいた。予選は4分24秒172と2位のタイムで通過し、対戦形式の決勝へ駒を進める。自身初のインカレ優勝を懸けた決勝戦。1周の目標タイムより0.3秒ずつ遅れる入りとなり、一時は追い抜きを予感させるほどまで迫られるものの最後の追い上げを見せ、ゴールではイーブンまで持ち直した。しかし序盤に作られた遅れを取り返すまでには至らなかった。4分25秒833で2位となり、2年連続の2位と悔しい結果に。「調子が上がらず、なかなか自分の思い通りに走れなかった」と悔しさをにじませた。

賞状を掲げる伊藤

チームワーク光る金

インカレ3日目の4㌔チームパーシュートには伊藤、山下虎ノ亮（法3）、釜田佳典（法3）、三宅太生（法2）の4人が出走。最終レースにも関わらず4分04秒730と大会記録に迫る好走を見せ、見事優勝を収めた。同日、オムニアムとマディソンにも出走した山下は「体力的にきつかった。3人のおかげで勝つことができたので感謝しかない」と自身の走りを振り返った。また「1走目、かなり速いペースで入ってしまった」と話すのは主将としてチームを引っ張る伊藤。釜田は「速いと感じたが、伊藤さんを信じていたので焦らず走れた」と語り、信頼関係の強さを明らかにした。

笑顔の4㌔チームパーシュートメンバー

◆大会結果◆

結果	選手名	競技名	備考
優勝	井出	ケイリン	中大勢連覇
		スプリント	昨年4位
	伊藤、山下 釜田、三宅	4㌔チーム パーシュート	
準優勝	井出、植松 熊谷	チームスプリント	昨年も準優勝
	伊藤	インディヴィジュアル パーシュート	昨年も準優勝
3位	伊藤、山下	マディソン	昨年4位

レイアウト 琴寄由佳梨